

多賀

taga



秋号

No.56

平成28年10月1日発行



十月から三月の祭事暦

十月

- 喜寿薙寿祭 十月七日(金)
- 遷座記念祭 十月十四日(金)
- 神嘗祭遥拝式 十月十七日(月)
- 献茶式 十月二十一日(金)

十一月

- 明治祭 十一月三日(木)
- 金峯荷神社例祭 十一月八日(火)
- 大宮祭 十一月十五日(火)
- 新嘗祭 十一月二十三日(水)

十二月

- 御煤払式 十二月二十日(火)
- 天長祭 十二月二十三日(金)
- 大祓式 十二月三十一日(土)
- 除夜祭 十二月三十一日(土)

平成二十九年

一月

- 歳旦祭 一月一日(日)
- 元始祭 一月三日(火)
- 古札焼納式 一月十五日(日)

二月

- 節分祭 二月三日(金)
- 紀元祭 二月十一日(土)

三月

- 祈年祭 三月十七日(金)
- 春季皇霊祭遥拝 三月二十日(月)
- 古稀薙寿祭 三月二十三日(木)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたち参り 元日を除く毎月一日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日

『お多賀さんと私』

華嚴宗管長・第二二二世東大寺別當

狹川 普文

六月十一日 東大寺別當 狹川普文殿下がご参拝されました。
東大寺と多賀大社のご縁、更に御祖父 明俊大僧正から続くご縁により 今回特別寄稿を頂戴しました。



今から一二六〇有年前、奈良時代に創建さ

れた東大寺は七堂伽藍の威容を誇っていました
が、治承四年（一一八〇）十二月平重衡の軍勢
が奈良に攻め入り、二十八日には大仏殿をはじ
め伽藍の大半が焼失してしまいました。

金堂である大仏殿、講堂、三面僧坊、東塔、
大湯屋などの主要伽藍をはじめ、戒壇院、尊
勝院（現在の正倉院周辺）、真言院、東南院な
ど多くの諸院・堂宇が灰燼に帰したのです。

翌年六月に至って、藤原行隆が造東大寺兼
修理大仏長官に任命され、一方入宋三度、造寺
にも経験の深い、かつて醍醐寺の僧であった俊
乗房重源が造東大寺大勧進に起用され、後白

河上皇の助援を得て再興が進められました。

勧進職に選ばれた重源は、既に六十一歳でし
たが、以後、建永元年（一二〇六）六月に東大
寺浄土堂で入寂（享年八十六歳）するまで、盧
舎那大仏像の修理、大仏殿の再興、諸堂諸仏
の復興を成し遂げられました。この再興事業は
想像を絶する大事業で、その故か重源は二度に
わたって逐電問題を起こした程でした。しかし
ながら、東大寺再興による建築技術や鑄造・
彫刻などの面での新技法の開拓は、新時代を
告げるにふさわしい成果をあげたのです。

大事業を成し遂げるため、重源上人が長寿
延命を多賀大社に祈願したという記録は、東
大寺には伝わっていないのですが、建久九年（一
一九八）十二月十九日、重源は弘法大師請来の
舍利一粒を納めた金銅五輪塔一基を、近江敏満
寺に寄進したという記録が残っています。敏満
寺は現在廃寺であり、この品は寺跡に建つ胡宮
神社に伝えられてきました。おそらく、この前
後に多賀大社に参詣されたのでしょう。

小納の祖父にあたる狹川明俊大僧正（第二〇
一世東大寺別當）は、重源上人の多賀大社参拝

の故事に倣い、毎年お多賀さんに参拝しており
ましたが、九十八歳まで長寿を全うしました。
重源上人が結んで下さったご縁、明俊長老が
毎年参拝させて戴いたご縁、父にあたる宗玄長
老も現在九十六歳というご縁。

奇しくも、本年五月より第二二二世東大寺
別當を拝命し、去る六月に正式参拝をさせて
戴きましたが、その折、犬上宮司さまから大き
な宿題（書画作品）を頂戴致しました。

東大寺の今後の展望を見据えた場合、やは
り健康が一番であることを考えると、宮司さま

の宿題にお応え
することが第一
関門と捉え、法
務が一段落した
ら、神域に満ち
たお多賀さんの
神力をお借りし、
作品を創作出来
ればと存じてお
ります。今しば
らくの猶予を戴
ければ幸いです。



九月 古例祭



鳳輦を担ぐ還暦氏子

九月九日 ちゅうきゅう 重陽の節句に九月古例祭が斎行されました。
本年は、多賀町屏風地区より西村弘義氏が頭人としてご奉仕頂きました。
当日は、還暦の氏子中が担ぐ鳳輦を中心とした渡御や、豊凶を占う古知古知相撲が執り行われ秋の訪れを感じさせる境内は賑わいを見せました。



舞を奏でる氏子小学生



頭人
西村 にしむら
弘義 ひろよし

昭和12年1月14日生(満79歳)
●現職 西村機械製作所代表
●略歴 多賀町屏風区長
屏風区氏子総代



豊凶を占う古知古知相撲

講社大祭

恒例の講社大祭が九月二十八日に斎行されました。
本年は献幣使として蒲郡多賀講より大竹康俊氏がご奉仕されました。

栄えある講社大祭献幣使奉仕にさいして

蒲郡多賀講

おおたけ やすとし
大竹 康俊



この度、全国の多賀講議員の皆様を代表し、議員の家の安全、延命長寿を祈念する献幣使の大役にご推挙下さいましたことは、蒲郡多賀講は元より私にとつて誠に身に余る榮譽と感謝しております。

私も蒲郡多賀講は、競艇とミカンと人情が誇りの愛知県蒲郡市にあり、議員一同多賀大神様を日々信心しております。

私の父は蒲郡生まれではなく、明治四十二年多賀の地に生まれました。祖父母が、多賀大社にて奉仕をしていた事から、父は、当時の宮司様より多賀大社の「多」を頂き、「多佐造」と命名されたと聞いております。

父多佐造、還暦の折には多賀大社より蒲郡多賀講設立の声がかかり初代講長を務めることになりました。爾来、四十七年間五代の講長を数え現在に至っております。

その間、古例大祭にも親子二代で参加させて頂きましたことは、今でも心の宝となっております。

今後とも父親の意を大切に大神様のご加護を末永く賜りますよう、また全国議員の皆様のご健勝を祈念しご奉仕に際しての御礼とさせていただきます。

供奉者ご紹介

石田昭一氏 中村辰男氏 浅井一二氏
齊藤篤司氏 壁谷六雄氏



新嘗祭 (豊年講秋季大祭)

十一月二十三日、約五百俵もの初穂米を積み上げて新嘗祭が斎行されます。
本年の豊年使は、米原市東黒田西学区大世話係高森仁司氏がご奉仕されます。

豊年講秋季大祭豊年使を奉仕するにあたり

豊年使

たかもり ひとし
高森 仁司



この度、豊年議員を代表し、豊年使として新嘗祭をご奉仕させていただくこととなり、この上ない喜びと感じております。

平成十二年より父の後任として字の世話係に就任した事を機に豊年講に携わり、地区大世話係としては三年目の未熟者で、決して大役を担う器ではございませんが、精一杯ご奉仕させていただきます。

私自身多賀大社へは生まれたころから家族揃って年越し参りをし、人生の節目も必ずお参りしております。古稀を迎えた今、孫にも囲まれた穏やかな日々を送れているのは、ひとえに多賀の大神様のお陰と感謝致しております。

当日は地区の世話係と共に、恙なくご奉仕出来ますようお願い申し上げます。



祭礼調査はじまる

多賀町立文化財センターによる当社年間祭事の祭礼調査が行われています。調査結果は今後のまちづくり事業に活用される予定です。

祭礼調査について

多賀町立文化財センター所長補佐

音田 直記

昨年度から、多賀大社における祭礼を調査する専門委員会を組織し活動を行っています。

現在の祭りは、長い歴史の中で変遷したもので、例えば四月の古例大祭と九月の古例祭の他に昭和二十二年までは六月にも同じ規模の古例祭があったそうです。一年に三回の古例祭のいずれもが、祭りを主宰する役である頭人を氏子崇敬者から選定定める「差定」という形で行われてきたことは大変貴重な事例で、「国内でも古くから現在に続く、貴重な祭礼行事である」といえるでしょう。

祭礼の変遷を調査していくなかで、多賀大社と地域の関わりの深さを発見する事が出来、多賀大社の祭りは地域の歴史文化の象徴だと思いました。

また、多賀町のまちづくり事業においても、祭りの重要性和可能性については大きな期待が寄せられております。今回の調査が、今後のまちづくり事業に、重要な役割を果たすものであると位置づけております。

境内紹介

4

三宮神社・聖神社



この二社は一社殿にお祀りされており、この度改修工事が執り行われました。

三宮神社は「建築土木」・聖神社は「病氣平癒」のご利益があると云われています。

特に聖神社は明治以前、平安時代東大寺の再建を命じられた僧侶「俊乗坊重源」を「ご祭神」としておりました。

重源は、当時六十歳という高齢であったことから当社に延命祈願に訪れ、二十年の寿命を授かる神示を受け、無事再建を成し遂げたと伝えられています。

聖神社の前には、重源に縁の深い寿命石が今なお残っており、故事に倣い、健康長寿の祈りを込める白石をお供えする参拝者が絶えません。

たがみち

Tagamichi

Vol. 7

御代参街道

愛知川・八日市

小幡ルート

「御代参街道」が中山道から分岐する地点は、小幡（東近江市五個荘小幡町）であると言われています。

近江鉄道五個荘駅から中山道に接続する道の角に「右京みち 左いせひの八日市みち」と二面に刻まれた道標が建っています。享保三年（一七一八）に建てられました【写真①】。

また、明治二十六年（一八九三）

頃に陸地測量部が測量した二万分の一の「測量部地図」には、中山道から小幡・奥・下野・上日吉（建部日吉）を通り八日市へ進む道が二重線で描かれていて、「御代参街道」と



写真① 小幡の道標



写真② 小幡旧ルート入口

いう表記もあります。

ところが、明治六年九月の「小幡村地券取調総絵図」を見ると、現在の場所ではなく、もう少し北で道が分かれています。前田谿澗堂の前を東に向かう細い道で、これが小幡旧ルートです【写真②】。

愛知川がよく氾濫し道が荒れているので「街道の付け替えを願ひ出た」という古文書が地元に残されており、新しい道ができた時に、道標も移動されたようです。

奥村神社には社務所の植え込みに「すぐいせ八日市道 すぐたがゑち川道」と両面に刻まれた道標があります。

その後、下野を通り建部日吉に進みます。日吉には「右ハいせみち」と「右ゑちかわみち」（金賞寺）の道標があります。

新堂ルート

中山道の三俣（東近江市五個荘三俣町）と新堂（同新堂町）の境界に東へ入る道があります。松本木材店の北側で、今は廃道になっていて木材店の南に新道が出来ています。

ここに「右京道 左いせひの八日市」とかかれた天保十五年（一八四四）の常夜灯が建っています【写真③】。

この道については江戸幕府が文化三年（一八〇六）に作成した「中山



写真③ 新堂の常夜灯

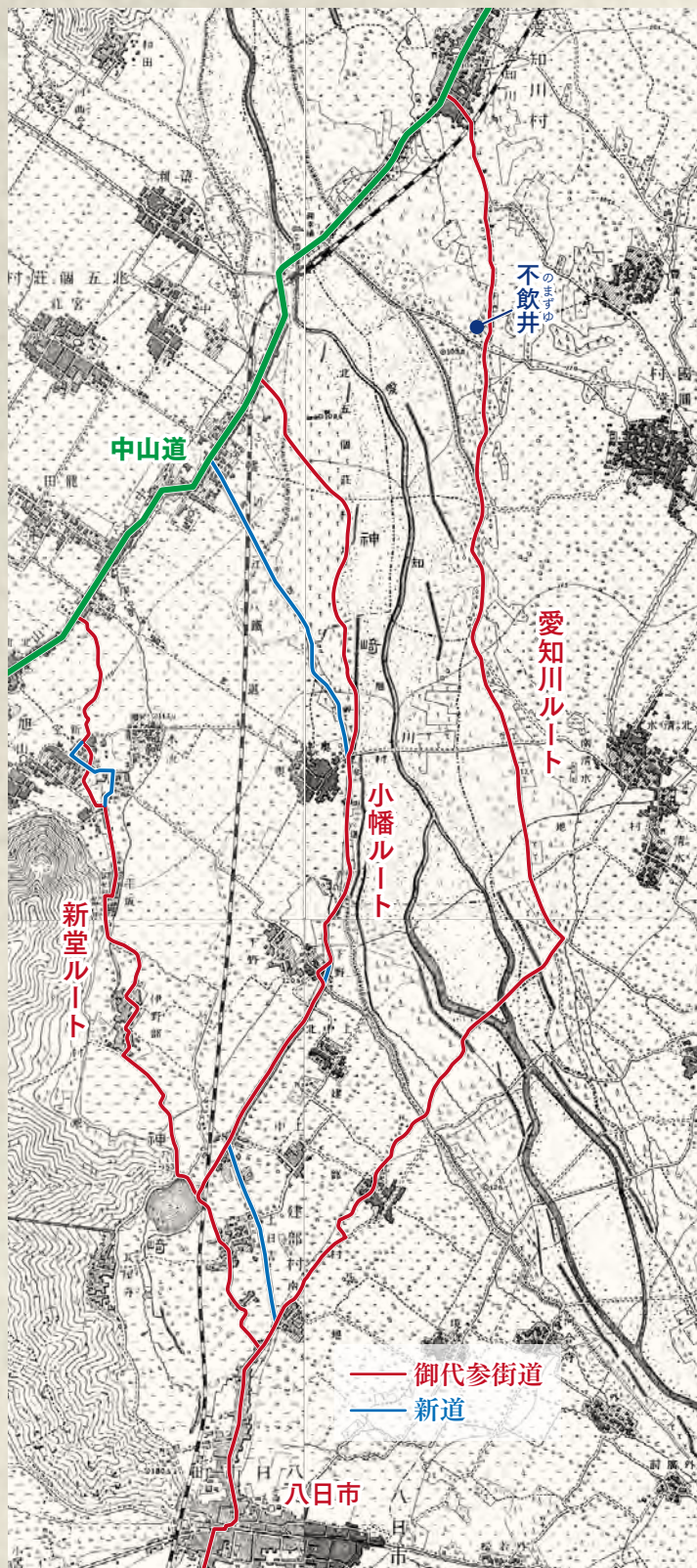
道分間延絵図」に描かれており、伊勢路 道法廿六里 八日市村江一里 日野江五里」と記されています。

新堂には、円光寺の角に「左いせ道 同八日市」が、地藏堂前に「右ゑち川たか道 左むさ八まん道」（宝暦九年一七五九）と刻まれた道標があります。

その後、木流・平阪・伊野部を通り日吉に進みます。

愛知川ルート

中山道愛知川宿（愛荘町愛知川）の中ほどより南に行ったところで東



御代参街道「中山道～八日市」(明治26年測図の陸地測量部地図に加筆)



写真④ 愛知川ルート入口

に入る道があります。角には「小松屋」という菓子店がありました【写真④】。不飲井に出て東円堂・南清水・大清水を通り、小田町の極楽橋の交差点に出ます。

極楽橋から対岸の建部北に渡ると「河辺いきもの森」があり、そこには「左多ち川」という自然石の道標があります。吉祥院の前にも「いせみちみきへ」の道標があり【写真⑤】、建部南を通り建部日吉に進みます。

この道は「測量部地図」に載っていますが、江戸期の『近江国絵図』

にも描かれています。

また、『愛智川宿森野家文書』には井伊直孝が愛知川宿で東に折れ、「野間津」に出て土山に向かったとの記述があります。徳川家光が疱瘡を患ったので、直孝が代参で伊勢神宮へ平癒祈願に行った寛永期(一六二四～四三)の話と思われます。



写真⑤ 建部北の道標

さて、小幡・新堂・愛知川からの三つのルートを考えましたがそれらは建部日吉で出合い、八日市に進みます。中山道から八日市へ行くの一本の道ではなく「伊勢道」として併存していたのでしょうか。

ただ、『国絵図』や『森野家文書』が示す内容から、愛知川ルートが御代参街道の原型ではないかと考えています。

(門脇正人)

多賀道プロジェクト

コアメンバー

- ・多賀大社
- ・シブヤ写真館
(渋谷博)
- ・多賀町立博物館
- ・門脇正人
(愛荘町立歴史文化博物館顧問)
- ・中川穰
(郷土史家)
- ・中川信子
(多賀町文化財保護審議会委員)

観月祭 献詠献句

短歌特選

ねばたまの

月を愛でつつ違かなる

被災の地にと思ひ馳せいる

彦根市 河分武士

楽人の

夜目にも綺羅の装束に

舞える姿よ観月の夜

甲賀市 田中とも子

俳句特選

初鴨に

さざ波の綺羅 ありにけり

米原市 成宮義雄

一舟の

過る煙めき 月の道

高島市 貫野浩



多賀の杜

多賀の杜の整備事業が始まりました。
今春には職員総出で成木調査を行い、一本一本の生育状況を調べ、整備計画が策定されました。第一期事業として、大鳥居、太閤橋周辺の境内林整備が進められ、併せて絵馬殿に隣接する池の景観整備も施され、境内の前庭が木漏れ日が差し込む柔らかな雰囲気となりました。



西島数博 さん 夫妻参拝 真矢ミキ

八月二十一日、新国立劇場で上演される西島数博氏が手掛ける神話舞台「ドラマティック古事記」で、ご夫婦が当社のご祭神であるイザナギ・イザナミ役を演じるため、今回ご参拝されました。



熊本地震義捐金御礼

熊本地震災害に対し、氏子ならび参拝者の皆様に募金のお願いを申し上げました所、総額約五十万円の義捐金をお寄せ頂きました。皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げますと共に被災地の一日も早い復興を祈念申し上げます。尚、この義捐金は滋賀県神社庁、多賀町役場を通じて被災地へお届けさせて頂きました。

多賀大社 七五三

祈禱・衣装・写真がセットになった
お得なプランが登場!



七五三記念パック

6,200円
お得に

25,000円(税込)

※本殿祈禱は追加5,000円にて
※パック対応は一人につき

通常価格

○祈禱:5,000円

○衣装:16,200円

○写真:10,000円

合計31,200円(税込)

※価格は一例です

期間:平成28年10月1日~11月30日 **要予約**
記念パックお問合せ:0120-43-6160

参集殿からのご案内

挙式・披露宴承り中



縁結びの神様に誓う
厳やかな結婚式
広い境内や神聖な杜
国の名勝である
お庭を望むロケーションは
撮影スポットとしても最適!

祝

七五三、
お宮まいり

完全
予約制

秋の特別プラン

お子様の健やかな成長をお祝いして
お多賀さんで
お祝いの食事会...

10月・11月の期間中、特別プランをご用意いたしました。記念写真・レンタル衣装のご予約も承っております。

華

HANA
のコース



松花堂 3,240円



お子様ランチ 2,160円



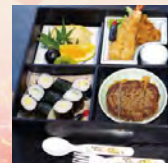
お子様ランチ 1,620円

彩

IRICORI
のコース



会席 5,400円



お子様ランチ 2,160円



お子様ランチ 1,620円

※別途・サービス料を頂きます。

お問い合わせ

0749-48-1103 (参集殿直通)

※完全予約制(年中無休)詳しくは
ホームページをご覧ください。

多賀大社参集殿

検索

11



えと鈴

守護矢



えと鈴	¥800
えと張子	¥800
鎬矢（特大）	¥5,000
鎬矢	¥2,000
守護矢	¥1,000

ふく栞	¥2,000
熊手(特大)	¥10,000
熊手(大)	¥5,000
熊手(中)	¥3,000
熊手(小)	¥1,000



神社参拝の証となる御朱印を集める女性が近年増えており、休日ともなると一日三〇〇枚を超えることもあり、一時のブームで終わらない事を願っています。

今号の巻頭に東大寺別當狹川普
文猊下の玉稿を賜りました。
多忙を極める中、衷心より厚く
御礼申し上げます。

人事

〔舞女兼事務員〕
小堀 美波
(平成28年3月15日付)



〔舞女兼事務員〕 高木あゆみ
(平成28年3月30日付)

〔舞女兼事務員〕 井上かおり
(平成28年8月15日付)